

●こばやし・かい

1993年生まれ。大館市出身。大館市立桂城小学校、大館市立東中学校、秋田県立秋田工業高等学校、早稲田大学社会科学部卒業後、ビックカメラに入社。小学校で陸上を始め、中学校時代までは駅伝に取り組む。高校で競歩と出会い、駅伝との両立を図るも、大学時代に競歩に専念。現在はビックカメラ陸上部で競歩を続け、2016年に20キロメートルから50キロメートルへと転向。10月に行われた初挑戦の全日本50km競歩高島大会で優勝し日本代表に内定すると、2度目の50キロメートルとなった2017年のロンドン世界陸上で銅メダルを獲得。

JAグループの皆さん、こんにちは。ビックカメラ陸上部で競歩に取り組んでいます、小林快と申します。私は生まれてから中学校までの15年間を大館市で、そして高校の3年間を秋田市で、合計18年間を秋田県で過ごしてきました。

陸上競技を始めたのは小学校からですが、特に中学校時代は当時取り組んでいた駅伝に周りから呆れられるほど没頭し、部活動が終わってからもう一度走りに行くという毎日を送っていました。夜遅くまで練習することに對して両親は表情を曇らせていましたが、コーチが同伴ならばと渋々了承してくれていました。

コーチに遅くまで付き合ってもらい、真っ暗闇の中を車のライトで照らしてもらいながら走る毎日。時には横でコーチの激励にハッパを掛けられながら、自分の力を限界まで振り絞る日々でした。毎日へとへとで

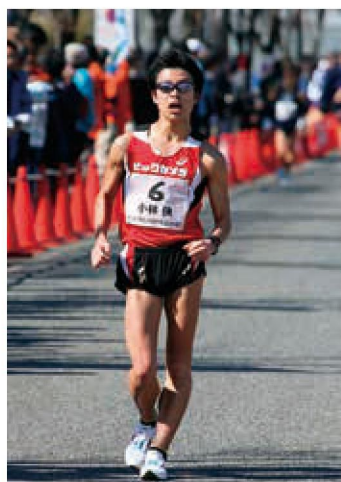
最高の食卓と、最高のお米

帰ると、もう時間は21時過ぎ。しかしどんなに遅く帰っても、いつもそこには温かな食卓がありました。両親は、遅くまでの練習に賛成してはなかったのにもかかわらず、いつでも私とテーブルを囲むのを待っていてくれたのです。もちろん、へとへとでもある私にとって、それは最高の食卓でした。何杯も何杯もご飯をおかわりし、また次の日のエネルギーを存分に蓄えていました。

そんな私も今ではもう社会人。東京に住んでいますが、選ぶお米はいつでも秋田のお米です。昨年の世界陸上は残念ながら秋田のお米で、というわけにはいきませんでした。レンジでチンするご飯をいつでも持参。それがレースの力の源でした。もちろんロンドンの主食はパンですが、毎日のようにパックのご飯を食べ、そのおかげもあってか自己ベストでの銅メダルを獲得することができました。このようにロンドンでもお米を食べていたわけですが、東京の自宅に着いてから最初に食べた物は、やはり秋田のお米でした。久しぶりに食べたときの感動はいつになっても忘れることはないでしょう。



ビックカメラ池袋本店のサングラスコーナーで勤務する様子。



神戸で行われた2017日本選手権。

ロンドン世界陸上競技選手権大会 日本代表

小林 快